

令和元年6月18日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12178

研究課題名(和文) がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションに関するケアモデルの開発

研究課題名(英文) Development of care model for social rehabilitation of children undergoing cancer treatment.

研究代表者

永田 真弓 (NAGATA, Mayumi)

関東学院大学・看護学部・教授

研究者番号：40294558

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：小児がんの子どもに対する小児がん拠点病院ならびに連携病院の社会リハビリテーションの実態について明らかにすることを目的に、インタビュー調査を実施した。

2017年小児がん拠点病院・中央機関および連携病院のうち、11施設17名の看護師から調査協力が得られた。小児がん拠点病院は7施設で、取得している資格は小児がん相談員5名、小児専門看護師4名(小児がん相談員との重複2名)等であった。5施設7名の看護師が語った小児がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションは、生活活動支援、家族・社会関係支援、環境整備に分類された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

小児がんの子どもが入院治療中から社会生活力を高め、退院後も自分らしい生活を送るために、小児がん拠点病院や連携病院の各施設が工夫しながらすで実践している、社会リハビリテーション支援の実践知を集積した。この看護師が語った小児がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションとしての生活活動支援、家族・社会関係支援、環境整備は、ニーズとして高い社会リハビリテーションを形式知にしたといえる。この成果は、入院治療中の小児がんの子どもへのトータルケアの充実のみならず、長期的なフォローアップを含めた小児がん経験者への支援としても意義があると考えている。

研究成果の概要(英文)：This study is aimed at clarifying social rehabilitation during hospitalization to maintain and improve the ability of patients with childhood cancer to return to normal life after discharge.

Cooperation of interview investigation was obtained from 11 nurses of 17 facilities.

Social rehabilitation of children undergoing cancer treatment as reported by nurses was classified into support for daily activities, support of family and social relationship and environmental improvement.

研究分野：小児看護学

キーワード：小児がん 看護師 社会リハビリテーション 生活活動 家族・社会関係 環境

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

がんリハビリテーションは、がん患者の生活機能とQOLの改善を目的とする医療ケアであり、がんとその治療による制限を受けた中で患者に最大限の身体的、社会的、心理的、職業的活動を実現させることである<sup>1)</sup>。なかでも、社会的リハビリテーションは、患者の社会復帰を円滑に進めるための経済的、社会的条件を調整するアプローチであり、リハビリテーション過程のすべてに関わりを持つ<sup>2)</sup>ともいわれる。そこで、小児がんの子どもの社会復帰に対する社会リハビリテーション研究が求められていると考える。

小児がんの子どもの社会復帰に関する研究を概観すると、(1)就学支援としての医療機関と院内学級や原籍校との連携、感染予防の情報提供、小中学校の児童生徒や教員の意識・態度、病気に関する自己開示、(2)小児がん経験者の自立支援としての復学・就学、自立に向けた社会資源の活用や環境整備といった社会制度の整備、小児がんの啓蒙、小児がん経験者に対する精神的自立支援の課題が報告されている<sup>3,4)</sup>。また、研究代表者らが小児がん経験者とその家族に実施した「がん治療中の食生活支援ニーズ調査」では、“退院後の生活を見通した食生活セルフマネジメント支援ニーズ”が示されていた<sup>5)</sup>ことから、入院治療中からの日常生活を通じたセルフマネジメントや自立支援を通じ、小児がんの子どもの自立し豊かな地域生活を送ることを可能にする社会生活力<sup>6)</sup>を高めることが重要と考える。

そこで、小児がんの子どもの入院治療中から社会生活力を高め、退院後も自分らしい生活を送るために、小児がん拠点病院や連携病院の各施設が工夫しながらすで実践している、社会リハビリテーション支援の実践知と課題を集積し、生活活動を中心としたがん治療中の子どもへの社会リハビリテーションに関するケアモデルの開発をしていくことが急務と考えている。

### 2. 研究の目的

小児がんの子どものための小児がん拠点病院ならびに連携病院の社会リハビリテーションの実態について明らかにする。

小児がん拠点病院ならびに連携病院への調査を通じて明らかとなった実践知をもとに、小児がんの子どもの入院治療中から社会生活力を高め、退院後も自分らしい生活を送るための社会リハビリテーション典型例を検討して抽出し、生活活動を中心とした『がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションに関するケアモデル』を開発する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 対象

対象施設は、2017年小児がん拠点病院・中央機関の16施設、および小児がん拠点病院ならびに連携病院のうち、申請者が2015年に実施した調査協力51施設を合わせ、重複3施設を除く64施設とする。

対象者は、研究協力の得られた施設において、現在取り組んでいる社会リハビリテーションを語ることができる看護師とする。

#### (2) 調査方法

研究協力の得られた施設において、視察調査と合わせて、対象者に半構成的なインタビュー調査を実施する。

#### (3) 調査内容

施設および対象者概要、実施している社会リハビリテーションの内容：生活の基礎<sup>2,3)</sup>(遊びや学習を含めた生活活動、感染管理、等)、自分らしい生活<sup>3,6)</sup>(脱毛やムーンフェイス等の外見変化への対応、病気や症状の理解と開示、友人や家族とのコミュニケーション・関係維持、等)、社会参加<sup>1,7)</sup>(院内学級や院内イベントへの参加、等)、実施している社会リハビリテーションの方法(を実施するためのプログラムやケアマニュアル、他部署・職種との連携状況、等)、施設で取り組んでいる社会リハビリテーションの反応と成果(看護職、他職種、患者・家族等)とする。

#### (4) 分析方法

録音したインタビュー内容を逐語録に起こした。その逐語録から社会リハビリテーションに関する部分を抽出して、コード化した。意味内容の類似性に留意し、サブカテゴリー、カテゴリーに集約した。結果の妥当性を確保し、信頼性を高めるために、分析の段階において研究者間で一致をみるまで、検討した。

#### (5) 倫理的配慮

本研究は、計画の段階で関東学院大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

### 4. 研究成果

#### (1) 調査期間

インタビュー調査を実施した期間は、2017年7月～2018年3月であった。

(2) 対象施設および対象者概要

調査協力が得られた対象施設は11施設、そのうち小児がん拠点病院は7施設であった。  
対象者は17名で、取得している資格は小児がん相談員5名、小児専門看護師4名(小児がん相談員との重複2名)であった(表1)。

表1. 対象者概要

| ID | がん拠点病院指定状況                 | 現在の施設種類 | 資格                       | 年代  | 小児がん看護/<br>小児看護の経験年数 |
|----|----------------------------|---------|--------------------------|-----|----------------------|
| A  | 小児がん拠点病院<br>地域がん診療連携拠点病院   | 大学病院    | 小児がん相談員<br>認定看護管理者       | 50代 | 7年/7年                |
| B  | 小児がん拠点病院                   | 小児専門病院  | がん化学療法看護CN<br>小児がん相談員    | 40代 | 13年/20年              |
| C  | 都道府県がん診療連携拠点病院             | 大学病院    |                          | 50代 | 8年/8年                |
| D  | 都道府県がん診療連携拠点病院             | 大学病院    |                          | 30代 | 4年/4年                |
| E  | 小児がん拠点病院<br>都道府県がん診療連携拠点病院 | 大学病院    |                          | 30代 | 7年/10年               |
| F  | 小児がん拠点病院<br>都道府県がん診療連携拠点病院 | 大学病院    | 小児看護CNS<br>小児がん相談員       | 40代 | 12年/20年              |
| G  | 小児がん拠点病院<br>都道府県がん診療連携拠点病院 | 大学病院    | 小児がん相談員                  | 30代 | 9年/9年                |
| H  | 県指定がん診療連携拠点病院              | 小児専門病院  |                          | 20代 | 8年/8年                |
| I  | 小児がん拠点病院                   | 小児専門病院  |                          | 50代 | 13年/20年              |
| J  | 小児がん拠点病院                   | 小児専門病院  | 小児看護CNS<br>小児がん相談員       | 30代 | 12年/17年              |
| K  | 県指定がん診療連携拠点病院              | 総合病院    |                          | 30代 | 11年/11年              |
| L  | 県指定がん診療連携拠点病院              | 総合病院    |                          | 30代 | 8年/17年               |
| M  | 県指定がん診療連携拠点病院              | 総合病院    | 小児看護CNS                  | 30代 | 2年半/12年              |
| N  | 都道府県がん診療連携拠点病院             | 大学病院    | 家族心理士(学会認定)<br>アピランスケア研修 | 50代 | 14年/24年              |
| O  | 都道府県がん診療連携拠点病院             | 大学病院    | 小児看護CNS                  | 30代 | 13年/13年              |
| P  | 小児がん拠点病院                   | 小児専門病院  | 緩和ケアCN                   | 40代 | 16年/24年              |
| Q  | 小児がん拠点病院                   | 小児専門病院  |                          | 40代 | 9年/20年               |

(3) 看護師が捉えた小児がん治療中の子どもへの社会リハビリテーション

11施設17名のうち、5施設7名の看護師が語った小児がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションは、生活活動支援、家族・社会関係支援、環境整備に分類された。

小児がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションにおける生活活動支援は、【日常的な生活リズムの再構築への対応】、【日常的な遊びや学習環境の提供】、【学習継続のための特別支援学校・学級の教員やボランティアとの調整】、【季節イベントやレクリエーションの企画・開催】、【感染予防行動の獲得と中心静脈カテーテルの自己管理に向けた教育支援】、【免疫状態に合わせた栄養・口腔ケア】、【調理や食事会を通じた食育】、【場面や状態に合わせた安全教育】の8カテゴリーに集約された。

小児がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションにおける家族・社会関係支援は、【病気と入院生活の情報提供における配慮】、【妊孕性温存のための情報提供と配慮】、【外見変化の影響を考慮した対応】、【友達関係継続のための調整と配慮】、【家族との時間を保障する面会ルールの緩和】、【家族の状況に合わせた資源の紹介と配慮】、【きょうだいに対する病気や入院生活の情報提供】、【療養段階に合わせた理学・作業療法】、【円滑な復園・復学に向けた準備】、【外来通院への移行準備】、【外来通院移行後におけるフォローアップ】、【在宅における療養生活を整えるための調整とケア】の12カテゴリーに集約された。

小児がん治療中の子どもへの社会リハビリテーションにおける環境整備は、【小児がん拠点病院としての生活活動環境の整備】、【小児がん拠点病院を中心とした研修会やカンファレンスの開催】、【小児がん拠点病院と関連機関とのネットワークづくり】、【社会生活支援のための媒体づくり】、【受け持ち医師・看護師を中心とした連携・調整を支える協力・教育体制】、【ワーキング・研究チームから発展する家族・社会関係支援】、【治療・ケアや課題共有を通じたチーム医療の醸成】、【移植や長期フォローアップのための整備】、【ファミリーハウスやピアサポートの紹介と参加協力】、【小児がん拠点病院設置後における入院患者動向の変化】、【在宅移行を促進する在宅医療部門】、【連携・協働を推進するインフォーマルなコミュニケーション】、【高校生の学習支援に対する行政との協議】、【一般市民に向けた啓蒙活動】の14カテゴリーに集約された。

今後は、残りの6施設10名の分析をすすめ、ケアモデルとして、小児がん治療中の子どもへ実施している社会リハビリテーションの典型例を抽出して整理する。

## 引用文献

- 1) Fialka-Moser V, Crevenna R, Korpan M, Quien M (2003): Cancer rehabilitation: particularly with aspects on physical impairments. J Rehabil Med, 35, 153-162.
- 2) 辻下守弘, 日本保健医療行動科学学会(監)(2000):リハビリテーション, 311-312, 保健医療行動科学事典
- 3) 厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究 働き盛りや子育て世代のがん患者やがん経験者、小児がんの患者を持つ家族の支援の在り方についての研究 平成20~22年度総合研究報告書(研究代表者 真鍋淳) <http://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=201020001B>
- 4) 厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究 成人がん患者と小児がん患者の家族に対する望ましい心理社会的支援のあり方に関する研究 平成20~22年度総合研究報告書(研究代表者 平井啓) <http://mhlw-grants.niph.go.jp/niph/search/NIDD00.do?resrchNum=201020076B>
- 5) 永田真弓, 宮腰由紀子, 飯尾美沙(2014): 小児がん経験者と家族が体験した小児がん治療中の食生活とその支援ニーズ. 小児保健研究, 73(4), 670-577,
- 6) 奥野英子, 他(2006): 自立を支援する社会生活力プログラム・マニュアル 知的障害・発達障害・高次脳機能障害等のある人のために, 中央法規
- 7) 永田真弓, 飯尾美沙, 小林麻衣, 他(2017): 小児がん治療中の子どもへの身体活動支援の実態(2) 看護師が捉えた運動および生活活動支援の実施状況 - . 小児保健研究, 76(5), 453-461.

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計0件)

[学会発表](計2件)

- 1) M.Nagata, M.Iio, Y.Hirose, S.Hashiura, M.Kobayashi: Support for daily activities in school rehabilitation of children undergoing treatment for cancer as reported by nursing. The 50th Congress of International Society of Pediatric Oncology, 2018.11.18.Kyoto (poster).
- 2) 飯尾美沙, 永田真弓, 廣瀬幸美, 小林麻衣, 橋浦里実, 清水裕子: 看護師が捉えたがん治療中の子どもへの社会リハビリテーションにおける家族・社会関係支援. 第66回日本小児保健協会学術集会, 2019.6.22.東京 (poster).

[図書](計0件)

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：飯尾 美沙

ローマ字氏名：I I O M i s a

所属研究機関名：関東学院大学

部局名：看護学部

職名：講師

研究者番号(8桁): 5 0 7 0 9 0 1 1

研究分担者氏名：廣瀬 幸美

ローマ字氏名：H I R O S E Y u k i m i

所属研究機関名：三育学院大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号(8桁): 6 0 1 7 5 9 1 6

研究分担者氏名：橋浦 里実

ローマ字氏名：H A S H I U R A S a t o m i

所属研究機関名：関東学院大学

部局名：看護学部

職名：助教

研究者番号(8桁): 6 0 7 3 7 3 0 2

(2)研究協力者

研究協力者氏名：小林 麻衣

ローマ字氏名：K O B A Y A S H I M a i

研究協力者氏名：清水 裕子

ローマ字氏名：S H I M I Z U Y u k o

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。